

1 山梨県内公共図書館の概況(平成24年度)

市町村立図書館の建て替えに関する動きとして、山梨市が9月に「新山梨市立図書館の概要(案)」を公表し、市民から意見を求めた。これによると、延床面積約2,000㎡、収蔵可能冊数は21万冊となる予定で、平成27年5月末の開館を目指す。北杜市では、平成25年3月に多目的ホールや児童館を備えた多目的施設「北杜市甲斐駒センターせせらぎ」が完成し、むかわ図書館が移転した。

市町村立図書館の主な動きとしては、都留市では、市民会館の耐震工事に伴い、会館内の図書館を7月から平成25年1月まで休館とした。その間はふるさと会館内に臨時図書室を開設して対応した。4月には「情報未来館」を統合し、幼児・情報フロアを開設した。甲州市では、7月に塩山図書館分館の「子ども図書館」が開館10周年を迎え、多彩なイベントを開催した。身延町では、8月から図書館ホームページの「身延町地域資料」で「身延の民話」のサイトを公開し、地域情報の発信に力を注いだ。甲府市では、県立図書館が移転・開館準備のため5か月間休館したことを受けて、6月から閲覧席を20席増設するなど、来館や貸出など利用者の大幅な増加に対応した。

県内の「子どもの読書推進計画」策定状況においては、中央市が4月に第2次計画を策定した。

県立図書館では、4月に阿刀田高館長が就任した。6月からの休館期間には、資料へのICタグ貼付作業、「新山梨県立図書館情報システム」の導入、稼働準備を行った。また、子ども読書支援センターの開設、障害者サービスの拡大、多目的ホールなどの館内施設で行われるイベント、市町村立図書館のブロック化による巡回搬送等、新事業の準備や体制の整備を並行して行った。7月に新図書館へ移転後は、館内の家具やサインの整備、蔵書点検等を行った。11月11日の開館日には約5,000人の入館者があった。1日の平均入館者は約3,700人で、これは当初の予想の2.5倍となった。

11月30日には第27回山梨県図書館大会を、県立図書館を会場として開催し、パネリストに金田一秀穂氏、塩見昇氏、阿刀田高県立図書館長、コーディネーターに国井雅比古氏を招き「ほん・ひと・ことばから図書館の未来を語る」と題したシンポジウム等を行った。

◆**図書館設置率** 〈平成 25 年 4 月 1 日現在〉

市区立図書館 100% (全国平均 98.5%)

町村立図書館 50.0% (全国平均 53.9%)

*全国平均の数値は『日本の図書館』2012 年調査集計結果



図 1 県内図書館設置市町村

◆**山梨県の現況**

面積 4,465 km²

人口 850,375 人

〈平成 25 年 3 月 31 日現在の

住民基本台帳人口〉

◆**図書館設置市町村〔20 市町村〕**

甲府市	大月市	笛吹市	中央市	昭和町
富士吉田市	韮崎市	北杜市	市川三郷町	富士河口湖町
都留市	南アルプス市	上野原市	身延町	忍野村
山梨市	甲斐市	甲州市	南部町	山中湖村